



ふせ おとこ せきかんさい  
コレラを防いだ男 関寛齋

やなぎはら み か こうだんしゃ  
柳原三佳作 講談社

幕末の江戸で人々を脅かしてきた伝染病、痘そう（天然痘）。「種痘（痘そうのワクチン接種）を受けると牛になる」といった根も葉もない噂も広まる中、西洋医学の医師関寛齋は人々を守るため、種痘をおこなってきました。安政五年には、恐ろしい感染症のコレラが江戸で猛威をふるいました。感染拡大から銚子の町を守るため、寛齋は予防法と治療法を手探りで研究します。ワクチン接種や手洗いなど現代にも通じる予防法を広め、多くの命を救った医師の半生を描きます。

